



愛隣幼稚園.....

園だより

.....20.12月

『かわいい』と思えること

そろそろ終息に向かっていってほしいと願っていた“新型コロナウイルスの感染”ですが、日本中でまた心配な状況になってしまいました。幼稚園の12月はクリスマス。イエス様誕生お知らせする子どもたちのページの日がお家の皆さんと一緒に、クリスマスの喜びを分かち合う日になりますようにと祈るばかりです。

ところで、私こと園長は最近、名実共に“おばあちゃん”というカテゴリーに入ってしまった。次女に子どもが生まれたのです。今年は嬉しい出来事を数えることが少ない中で、我が家のビッグニュースです。娘が母になった私の最大のミッションは、産後1ヶ月の間に、次女が我が子をとにかく“かわいい”と思えるように、サポートすること。<えっ?! 赤ちゃんは“かわいい”でしょ。まして、自分の子ならなおさらのこと。>こんな風に思う人の方が世の中には多いようです。でも、私はそうではなかったため、これが私のミッションでした。生後5日目、次女と孫がやってきました。我が家は新米ママサポート体制に全面的にシフトしました。BABAになった私ですが、この日からしばらくの間は孫が生まれたという実感も湧かないまま、徐々に身近にやってきたBABYをひたすら観察。おっぱいを飲む⇒げっぷをさせるがうまくいかずしゃっくり、たまに鼻から牛乳(おっぱい)⇒ぶりぶりという音と共にうんち(うんちとおしっこはしょっちゃん)⇒おむつを替える(これも頻繁)⇒寝る⇒フガフガ言い出したなと思うと泣き始める⇒おむつ替え⇒おっぱいを飲む⇒・・・という無限ループが始まりました。次女には生まれて初めてのことばかり、特にいつまで続くかわからない睡眠不足との闘いが新米ママにはきついようでした。(これは経験者でもしんどい。)それでも新米ママは、連日、「眠い!寝られない!」を連発しながらも奮闘。そう、これだけはBABAも代わってあげられませんか、「そのうち続けて寝てくれるようになるよ。」とか「無理しないでミルクにしてもいいんじゃない。」とか、次女が“～ねばならない”と自分を追い込まないように応援することしかできず、やっぱり最初は大変と改めて痛感したのです。更に保育に携わるものとしての興味から、観察を続けるBABAの発見は、『な～んだ、赤ちゃんってかわいくないじゃん!』でした。(見てきたはずなのに、そうと認識できなかったということです。)

* 赤ちゃんは笑わない。(笑ったように見えるのは、生理的的微笑と言われる無意識の微笑み)

* 赤ちゃんは泣く。(不快や欲求を伝えるために必死に激しく泣く)

* 赤ちゃんの睡眠と覚醒の間隔は非常に短い。(おっぱいを飲む力も弱く、また母親からの供給量も最初は十分でないため、長く寝てはられない)

初めて子どもを産んだお母さんは必死で頑張っているのに、赤ちゃんはしばらくの間、寝ているか眉間に皺を寄せて不快を訴えているかのどちらか、といってもいいくらい。それでもママが『可愛い!』と思うことは当たり前前のことではないのだと、客観的に観察してみて断言できます。(な～んだ、私が最初の自分の子をかわいと思えなかったのは、そういうことだったのか、と府におちて安堵しました。)新米ママが我が子を『可愛い!』と思える周囲にはママが元気で笑顔になれるために一緒に頑張っている人が居る。新米パパもママのきょうだいたちも微力ながらBABAも、小さな命のために、ママだけでないたくさんの方が巻き込まれて奮闘している。だから、新米ママが我が子を『可愛い!』と手放しで言えることは、簡単なことじゃないのです。我が家のような環境のご家庭だけではない。新米でもひとりきりで頑張らなきゃならないママだってたくさんいる。だとすると、そのママたちのしんどさはどれほどでしょう。どのママたちにも十分なケアが必要です。愛隣の子育て支援はまだそこまで届いてはませんが、愛隣に繋がる人たちが、どこかでひとり奮闘するママをサポートする人で居てくれるんじゃないかと密かに期待しています。余談ですが、今回、新米パパの悲哀も知りました。本当に気の毒です。だって、我が子を抱っこできるのは激しく泣いて不快を訴えている時が大半。それが最初のパパの役割かもしれませんが、パパの幸せだって大切だということにも気付かされました。

さて、時はクリスマス。お陰様で次女は「可愛い♡」を連発して子育てをしています。同じように世界中の小さな命が大切にされますように。どの子にもどの親たちにもクリスマスの恵みが届きますように。